



「卒業」

卒業というと、次の曲を思い出します。

青春時代が夢なんて
あとからほのぼの思うもの
青春時代の真ん中は
道に迷っているばかり

(『青春時代』森田公一とトップギャラン)



(ハクモクレン 宮崎市 2024.2.23)

自分がそのさなかにいるときは、大人から言われてもあまり意識していなかった。

でも、社会人になって、仕事が忙しいと
思い出すと、ふとあの頃は良かったなと思
い、もっとうすればよかった、そう思っ
てしまうものなのでしょう。

高校生や大学生のとき、目の前のことを
やるのが精一杯で、広いところからものご
とを眺めるゆとりなんてなかった。



(夜明け前 市郡医師会病院広場 2024.2.18)

そう思っていたけど、卒業式に出会うと
違ってくる。自分たちの卒業式のとき、誰
が、答辞を言ったのだったかな？思い出せ
ない。ただ、自分がやったことは覚えている。
中学校の卒業式で、卒業生記念品贈呈
は自分がやった(やるように言われた?)。

その時は、それをやるのが精一杯で、
学校にとって、在校生にとってどんな意味
をもつのか、まったく考えていなかった。

もう、役目を果たすことでいっぱい
だったのだ。



(シモクレン 宮崎市 2024.2.17)

目の前で、答辞を述べる代表者、その言
葉のひとつひとつに、限られた数年間が集
約され、まるでその時に、その場にいたか
のような気持ちになる。代表ではあるが、
その人も青春時代を生きてきたその人なの
だ。まさに青春時代の象徴なのだ。



(スイセン 宮崎市 2024.2.18)